

目穂肥は確実に施用し、こまめな水管理で 後期栄養を確保しましょう。

【7月16日現在の生育状況】 コシヒカリ（指標値比）

◆平坦地 草丈：長い、茎数：多い、葉数：並、葉色：淡い

◆中山間地 草丈：長い、茎数：やや少ない、葉数：並、葉色：淡い

◆コシヒカリの出穂期

平年並と予想されます（平坦地：8/2頃、中山間地：8/7頃、管内平均：8/3頃）。

1 出穂予想と穂肥のめやす(7月10日現在)

品 種 名	出 穂 予想日	穂肥施用時期				2回の合計 窒素量 (kg /10a)
		1回目	出穂前 日 数	2回目	出穂前 日 数	
【平坦地】 コシヒカリ	8/2頃	7/15～18頃	18～15	7/23頃	10	2.0
【中山間地】 コシヒカリ	8/7頃	7/20～23頃	18～15	7/28頃	10	2.0
新 之 助	8/9頃	7/19～22頃	21～18	7/28～30頃	12～10	2.0

◎その他品種出穂見込み：五百万石 7/20頃、つきあかり 7/23頃、こしいぶき 7/25頃、
こがねもち 7/31頃

※早生品種（五百万石、つきあかり、こしいぶき）は5月上旬に移植した場合を想定

※こがねもち、コシヒカリは稚苗5月10～15日頃、中苗5月15～20日頃に移植した場合を想定

※出穂期は今後の天候等により前後する場合があります。今後の最新情報を参考にしてください。

2 出穂直前の追加穂肥（葉色が低下している場合に施用）

◎コシヒカリで 出穂期に葉色の低下が想定され、かつ高温が予想される場合は、出穂期直前に追加穂肥を施用すると品質向上効果が期待できます。

【分施肥系における高温が予想される場合の3回目穂肥のめやす】

施用体系（基肥＋穂肥）	判定時期と葉色のめやす	施用時期、施要量
化学肥料＋化学肥料体系 ※3回目も化学肥料	出穂期3日前の葉色（注1）が SPAD値で31以下、又は葉色板で 4.0以下の時	出穂期3日前に窒素成分で 1 kg/10a を上限として施用
有機質肥料＋有機質肥料体系 ※3回目に有機50%肥料を施用	出穂期6日前の葉色（注1）が SPAD値で33以下、又は葉色板で 4.4以下の時	出穂期3日前に窒素成分で 1 kg/10a をめやすに施用

（注1）葉色は単葉測定値

【全量基肥施肥体系】

○葉色が低下し、出穂期の葉色（SPAD値）が32～33（又は葉色板で4.4）を下回ると予想される場合には、出穂期10日前までに追肥を実施しましょう。

○有機質肥料を施用する場合は、出穂期3日前より早目に、窒素成分で1 kg/10a程度を施用しましょう。

○なお、全量基肥肥料に含まれる緩効性肥料は土壌水分が不足すると窒素成分が溶出しに

くくなるので、飽水管理を徹底しましょう。

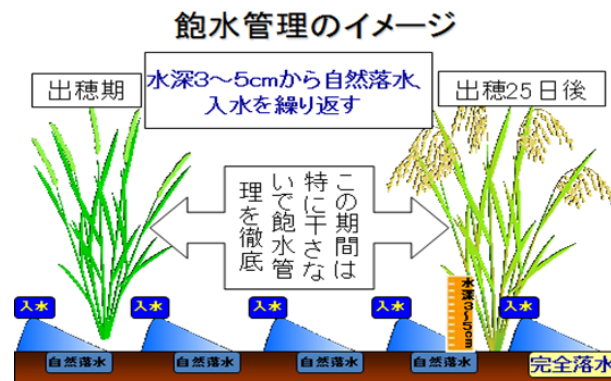
3 今後の水管理

(1) 飽水管理の徹底で稲体の活力を維持

○飽水管理とは、自然に水が減って田面に水がなくなり、溝や足跡の底に水が溜まっている程度になったら、かん水を繰り返す水

管

理です。
○高温下での継続した湛水は、根腐れの発生につながる所以水の更新を行いましょう。



(2) 完全落水は出穂後 25 日以降に実施

- 出穂後 25 日までは飽水管理を継続し、最終かん水を出穂後 25 日以降に実施します。完全落水はそれ以降としましょう。
- 早期落水は登熟が不良となり、未熟粒等が増加することで品質が低下するとともに、下位葉の枯れ上がりや倒伏が助長されます。
- 登熟期間が高温で経過する場合は、出穂後 30 日までかん水を行い、品質低下を防ぎましょう。

(3) 異常高温、強風フェーン時の水管理

- 異常高温、強風フェーン時は速やかに湛水し、稲体からの急激な蒸散による障害（白穂や着色粒、稔実障害等）の発生を防ぎましょう。
- 湛水深は可能であれば 3 cm 以上（フェーン時に湛水状態が保たれる深さ）としましょう。フェーン通過後は落水し飽水管理に移行します。
- ただし、高温・乾燥が 2 日以上続く場合は、ほ場の水温上昇を抑えるため、こまめな水管理を行いましょう。

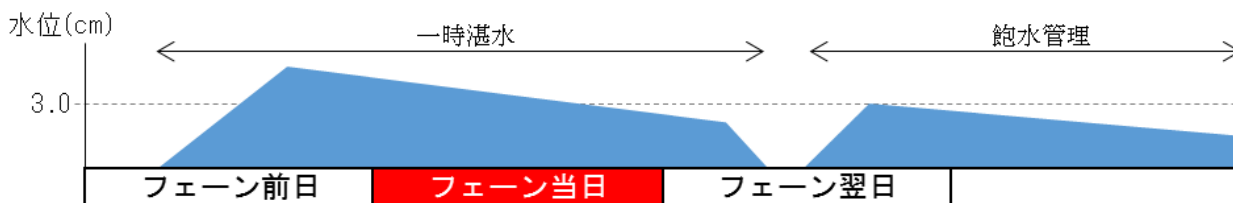


図 短時間（1日以内）のフェーン時の水管理

4 病虫害防除 ～いもち病の発生、カメムシ類の多発に注意～

- いもち病感染好適条件が出現しています。新之助等のいもち病に弱い品種や、生育量が大きく葉色が濃いほ場及び、過去にいもち病が見られたほ場では、こまめに確認を行い、早期発見・早期防除に努めましょう。
- 例年同様、病虫害発生予察調査では斑点米カメムシ類が多く確認されており、斑点米被害の多発が懸念されます。
- 生息地となる畦畔・農道は、イネの出穂以降もイネ科雑草が出穂・結実する前に除草を行いましょう。また、水田内のヒエやホタルイについても斑点米カメムシ類の増殖場所となるので、本田除草を徹底しましょう。
- 薬剤防除を行う場合は、カメムシの種類や薬剤により散布適期が異なりますので注意しましょう。